

第5学年 社会科学学習指導案

日 時 平成27年10月6日(火)

14:25～15:10

対 象 第5学年4組 24名

授業者 寺本 大一

1 小単元名「水産業のさかんな地域」

2 小単元の目標

我が国の水産業に関心を持ち、水産業が自然環境を生かして生まれ国民の食生活を支えていることや、水産物には外国から輸入しているものがあること、主な漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きを理解するとともに、国民生活を支える水産業の発展について考えようとする。

3 小単元の評価規準

	ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断・表現	ウ 観察・資料活用の 技能	エ 社会的事象につい ての知識・理解
小 単 元 の 評 価 規 準	①水産業に関心を持ち、 意欲的に調べようとして いる。 ⑧⑨国民の食生活を支え る水産業の発展につい て考えようとしてい る。	②我が国の水産業の様子 について調べることで 予想や学習問題を考え ている。 ⑦調べたことを振り返 ることで、水産業で働く 人々の工夫を理解し、 わたしたちの食生活を 支えていることについ て考えを書いている。	③写真や図から漁法の 違いやよさ、工夫し ているところを読み 取っている。 ④地理的位置や加工施 設を生かして生産を 高める工夫を読み取 っている。	⑤我が国の水産業は漁 場や水産資源の減少 などの問題を抱えて おり、水産物の輸入 が増えていることを 理解している。 ⑥つくり育てる漁業は 生産量が安定するよ う計画的に行われ、 様々な工夫や努力が 行われていることを 理解する。

4 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は、小学校学習指導要領社会科第5学年の目標(2)(3)、内容(2)ア、イ、ウに基づいて設定した。

学習指導要領小学校社会科 第5学年の目標

(2) 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。

(3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

(2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。

ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。

イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など

ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

児童はこれまでに食料生産の学習において、様々な食料の主な産地や農業のさかんな地域について調べてきた。その中で、食料生産が自然環境と深い関わりをもって営まれていることや従事する人々の工夫、努力、願いがあることを理解したり、考えたりしてきている。本小単元は、「わたしたちの生活と食料生産」の単元の第3小単元として位置づけられている。本小単元では、我が国は世界有数の水産物消費国であることを水産業に携わる人々の工夫や努力、願いがあることを調べていくことで、水産業が国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていることを理解する。また、我が国が水産業において抱えている課題に気づき、その解決方法や発展させる方法を考えることを通して、社会を支えていく一員として主体的に考え、表現できるようにすることを目指す。

(2) 児童観

※内容を削除して掲載しています。

(3) 教材観

本小単元では、世界有数の水産物消費国である我が国であるが、その背景には水産物を確保するために水産業で働く人々の工夫や努力があることを調べることを通して理解していく。その一方で、我が国の水産業が抱えている課題について考え、これからの水産業の在り方について考えていく構成である。

①資料を活用し、現状を理解する。

○「つかむ」段階

- ・給食の献立、主な国の1人1年間当たりの水産物の消費量のグラフからわたしたちは水産物を多く食べていること
- ・水産業で働く人の数や割合のグラフから水産業で働く人は減少し、日本の水産業が危機であること
- ・日本付近の海流や主な漁港の資料から豊富な漁場があることに気付く。
- ・日本とアメリカの排他的経済水域面積と国土面積、漁獲量のグラフからアメリカよりも日本のほうが獲れる面積が狭いのに漁獲量が多く、日本の水産業のすごさに気付く。
→これまでの学習をふまえて疑問を喚起し、学習問題をつくる。

○「調べる」段階

- ・水産物の獲り方に工夫があること
- ・水産物を消費地までにとどける工夫があること
- ・200海里水域の影響で漁業別の生産量が変化し、輸入も増加につながっていることに気付く。
- ・養殖や栽培漁業をしている人々にも工夫があること

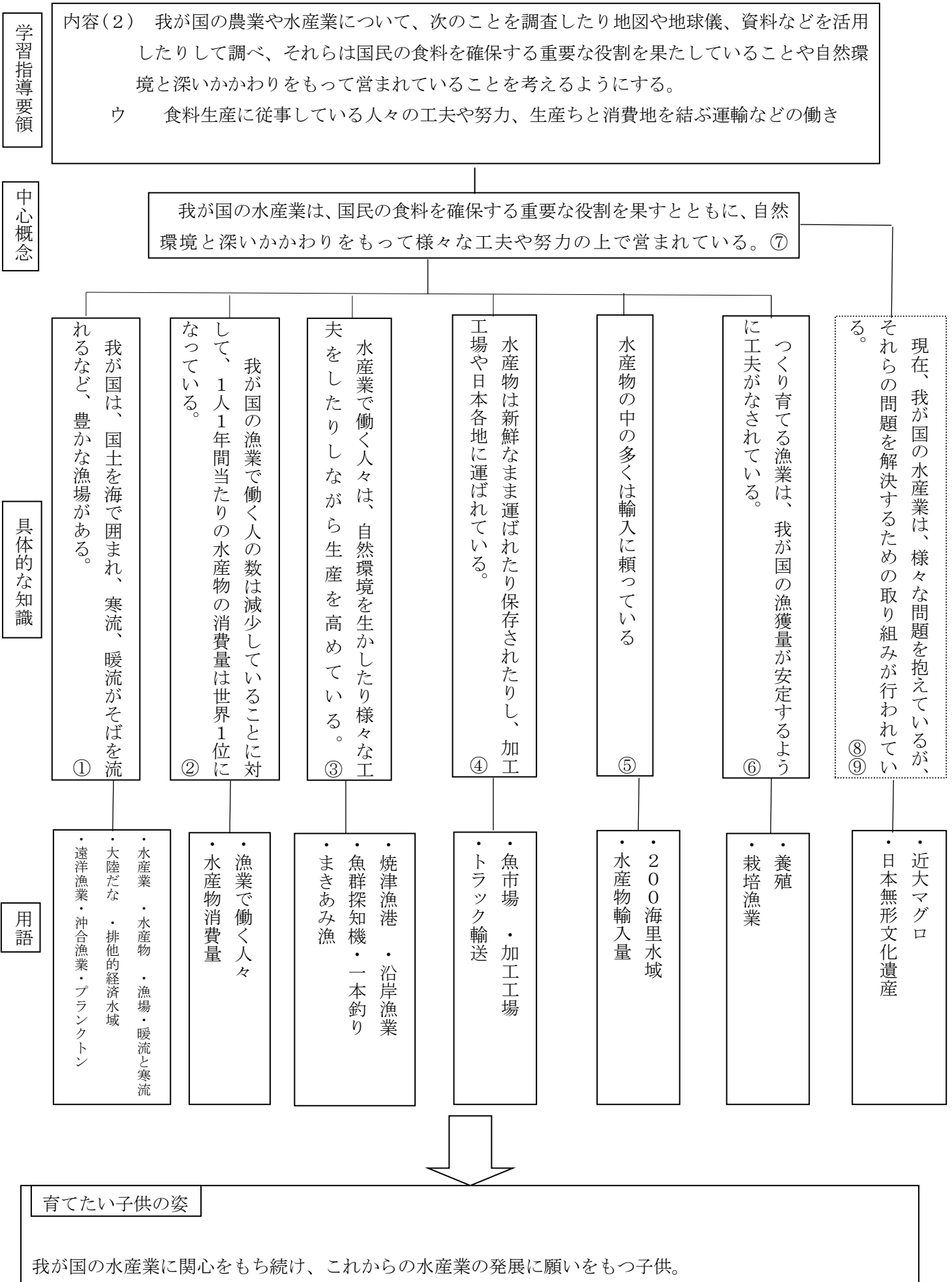
※資料から水産業で働く人々の多くの工夫や努力を読み取り、我が国の水産業で働く人々の工夫や努力がわたしたちの食生活を支えていることに気付く。一方で水産業の現状を理解していく中で「ふかめる」段階での未来思考につながると考える。

②これからの水産業の在り方や自分たちができるかかわり方を考える。

○「ふかめる」段階

- ・我が国の水産物消費量と水産業の現状を捉えたうえで、今後の水産業を支え、わたしたちの食生活を支えるための工夫を考える。
- ・これまで学習したいくつかの事実を比較したり関連付けたりしながら、近大マグロの素晴らしさと日本無形遺産に登録された日本食に注目することで未来の水産業について考える。

※○内は指導計画上の数字



6 指導計画 (全9時間扱い)

過程	ねらい (数字は字数)	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (○留意点 □教材 ◇評価)
つかむ	①水産物とわたしたちはどのようにかわっているのか考え、水産業について関心をもつ。	<p>○給食の献立を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん食べている。 ・毎日のように食べている。 <p>○かつおの実物大の写真・かつお節の実物を見るところで水産物を実感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思っていたよりも大きい。 ・大きいかつおがこんなに小さい細かなかつお節になるなんてすごい。 ・どうやったらこんなかつお節がつかれるのかな。 <p>○日本付近の海流や主な漁港を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銚子、焼津の水あげ量が多い。 ・日本は水産業が盛ん。 <p>○気付いたこと、驚いたこと、疑問などをノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちは、多くの水産物を食べている。 ・日本は、豊かな漁場にめぐまれている。 ・かつおがこんなに大きいとは思わなかったからびっくりした。 ・削る前のかつお節をはじめて見た。 	<p>□9月の給食の献立表</p> <p>□かつお実物大の写真</p> <p>□かつお節 (削る前)</p> <p>□かつお節 (削った後)</p> <p>○水産物・水産業の概要を捉える。</p> <p>□日本近海のおもな漁場とおもな漁港の水あげ量</p> <p>○沖合漁業、遠洋漁業、大陸だな、寒流・暖流、排他的経済水域の概要を捉えさせる。</p> <p>◇水産業に関心をもち、意欲的に調べようとしている。</p> <p>【関・意】</p>
	②我が国の水産業の様子について資料を読み取ることで水産業に関心をもち、予想を考え学習問題を設定する。	<p>○前時の感想の学習感想を発表して、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちは、多くの水産物を食べている。 ・日本は、豊かな漁場にめぐまれている。 <p>○漁業で働く人の数や割合のグラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人が減っている。特に若い人。 ・農業と同じように高齢化が進んでいる。 ・水産物が獲れなく(足りなく)なるかも。 ・このままでは、これまで多く食べていた水産物が食べられなくなるかもしれない。 <p>○主な国の一人1年間当たりの水産物の消費量のグラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は一位だ ・やっぱり日本は水産物を多く食べている <p>○漁業で働く人が減っているのに、どうやって多くの水産物を食べられるようにしているかグループで話し合い予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入に頼っているから ・獲るだけでなく、養殖もやっているのではないか 	<p>□漁業で働く人の数の変化</p> <p>□主な国の一人当たりの水産物消費量のグラフ</p> <p>○漁業で働く人の変化・主な国の一人当たりの水産物消費量の二つのグラフから矛盾を感じさせ「どうやって」を想起させ</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・魚を獲る工夫があるのではないか ・獲る人々だけでなく、加工したり、保存したりするなど多くの人がかかわっているから ・豊かな漁場が多くあるから、いっぱい獲れる <p>○グループで考えた予想を発表し合い、その予想を解決するための学習問題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獲る工夫について調べる ・輸入について調べる ・獲る人以外にどんな人々がかかわっているのか調べる ・養殖や育てる漁業について調べる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習問題 水産業で働く人々は水産物を確保するためにどのような工夫をしているのだろう。</p> </div> <p>○学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産物の獲り方の工夫 ・新鮮なまま保存・加工 ・つくり育てる漁業 ・輸入との関係について 	<p>る。</p> <p>○自分たちが考えた予想を解決するための学習問題づくりを行うようにする。</p> <p>◇我が国の水産業の様子について調べることで予想や学習問題を考えている。【思・判・表】</p>
調べる	③魚を獲るための工夫について調べる。	<p>○一本釣り漁と巻網漁の資料から魚を獲るための工夫について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣りは特別な針を使用している。 ・魚群探知機で群れを探している。 ・巻網漁は、2隻の船が協力して獲っている。 <p>○一本釣り漁と巻網漁など獲り方が違う理由について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本釣りは素早い冷凍 ・巻網漁は大量漁獲 <p>→それぞれの特徴を生かして獲り方を変えている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 一本釣り漁と巻網漁の写真</p> <p><input type="checkbox"/> 一本釣り用の特別な針の写真</p> <p><input type="checkbox"/> 一本釣りの針</p> <p><input type="checkbox"/> 巻網漁の図</p> <p><input type="checkbox"/> 一本釣りと巻網漁の動画</p> <p>◇写真や図から漁法の違いやよさ、工夫しているところを読み取っている。【技能】</p>
	④水産物を消費地に届けるまでの工夫を調べる。	<p>○焼津港が多く水あげされる理由について資料をもとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな港 ・東京、名古屋、大阪などの大都市に近い。 ・水産加工団地といった共同で利用できる加工施設がある。 ・冷凍保存できる大きな倉庫 <p>○焼津港から消費地にとどくまでについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲買人さんが発送準備 ・トラックで輸送 ・せりが行われる ・新鮮さを保つ 	<p><input type="checkbox"/> かつおの水あげの多い漁港</p> <p><input type="checkbox"/> 漁港の動画</p> <p><input type="checkbox"/> 教科書・地図帳</p> <p><input type="checkbox"/> 消費地まで運ばれる流れの資料</p> <p>◇地理的位置や加工施設を生かして生産を高める工夫を読み取っている。【技能】</p>

	<p>⑤⑥水産業の抱える問題点を理解し、その解決策を調べる。</p>	<p>○漁業別の生産量の変化について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に生産量が減っている。 ・沖合漁業は大幅に生産量が減った。 ・1985年ころから減りは始めている。 <p>○200海里水域と世界の漁場別に見た日本の漁業生産量と200海里水域制限前の世界の漁場別に見た日本の漁業生産量のグラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔はいろいろなところで獲っていたのに、今は日本の周辺でしかとれていない。 ・制限ができて獲る量が減ってしまった。 ・だから、漁業別の生産量は下がってしまっている。 <p>○日本の水産物輸入の変化のグラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に日本で獲れないぶん輸入が増えている。 ・増え続けているのではなく、1995年をピークにまた、減っている。 ・つくり育てる養殖業が大切になってくるのではないか。 	<p>□漁業別の生産量の変化</p> <p>□200海里水域と世界の漁場別に見た日本の漁業生産量と200海里水域制限前の世界の漁場別にみた日本の漁業生産量</p> <p>□日本の水産物輸入の変化</p> <p>◇我が国の水産業は漁場や水産資源の減少などの問題を抱えており、水産物の輸入が増えていることを理解している。</p> <p>【知・理】</p>
		<p>○ほたて貝の養殖業について調べ、養殖の様子、工夫や努力についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に生産できる。 ・3センチぐらいまであみに入れて育てた後、かごの中で育てる。 ・手作業で大変だけれど、成長を見るのは楽しみ。 <p>○ひらめの栽培漁業について調べ、栽培漁業の様子、工夫や努力についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獲りすぎて減らしてしまったため、資源管理をしている。 ・施設で稚魚を育て、海に放流する。 	<p>□教科書・資料集</p> <p>◇つくり育てる漁業は生産量が安定するよう計画的に行われ、様々な工夫や努力が行われていることを理解する。</p> <p>【知・理】</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑦これまで学習してきたことを振り返り、学習問題に対する考えをまとめる。</p>	<p>○これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮なさを保ったり、加工したりするなど、ものによって水産物の獲り方を工夫している。 ・新鮮さを保つためにすぐに冷凍保存したり、輸送のときに鮮度が落ちないように工夫したりしている。 ・つくる育てる漁業をすることで生産量を安定させるような工夫や努力をしている。 <p>○学習問題に対する考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産業の人々は、働く人が減少しているという問題点もあるが水産物を確保するために多くの工夫や努力をしている。また、多くの人の工夫や努力があってこそ私たちの食生活は支えられている。 	<p>◇調べたことを振り返ることで水産業で働く人々の工夫を理解し、わたしたちの食生活を支えていることについて考えを書いている。</p> <p>【知・理】【思・判・表】</p>
<p>ふか</p>	<p>⑧⑨水産業が抱える諸問題を改善、解決</p>	<p>○マグロ漁獲の危機である新聞記事と減り続ける太平洋クロマグロのグラフを読む。</p>	<p>□マグロ漁業の危機(日経新聞)</p>

める	<p>するための取り組みについて調べ、これからの水産業の発展について関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マグロが一番好きなのに。いやだ。 ・もうマグロが食べられなくなるなんて、信じられない。 ○近大マグロの新聞記事とビデオで調べる。 ・わたしたちの食生活を守るために素晴らしい工夫をしている。 ・すごすぎる。どんどん進化している。 ・改めて多くの人々に支えられていると思った。 ○これからの水産業はどうあるべきか考え、話し合う。 ・獲ることについては獲る量を考え、消費者も一緒になって考えていかなければいけない。 ・今後、近大マグロのように養殖が中心になってくるのでは。そのために研究することも大切になってくる。 ・環境を整えていくことも大切。 ・水産業を守ることは日本食を守ることにもつながるから国をあげて守っていかなければいけない。 ・世界の国々と協力することも大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>減り続ける太平洋クロマグロ <input type="checkbox"/>近大マグロについての新聞・動画 <input type="checkbox"/>日本食世界無形文化遺産に登録された新聞記事
----	--	--	---

7 本時の指導 (2時間目/9時間)

(1)ねらい

我が国の水産業の様子について資料を読み取ることで水産業に関心をもち、学習問題を設定する。

(2)本時展開

	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	教師の指導・支援(○留意点 □教材 ◇評価)
導入 2分	<p>○前時の感想の学習感想を発表して、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちは、多くの水産物を食べている。 ・日本は、豊かな漁場にめぐまれている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日本の水産業の様子について話し合い、学習問題をつくろう。</p> </div>	<p>○ノートを振り返るようにする。</p>
展開 41	<p>○漁業で働く人の数や割合のグラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人が減っている。特に若い人。 ・農業と同じように高齢化が進んでいる。 ・水産物が獲れなく(足りなく)なるかも。 ・このままでは、これまで多く食べていた水産物が食べられなくなるかもしれない。 <p>○主な国の一人1年間当たりの水産物の消費量のグラフを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は一位だ ・やっぱり日本は水産物を多く食べている <p>○漁業で働く人が減っているのに、どうやって多くの水産物を食べられるようにしているかグループで話し合い予想する。</p>	<p>□漁業で働く人の数の変化</p> <p>□主な国の一人当たりの水産物消費量のグラフ</p> <p>○漁業で働く人の変化・主な国の一人当たりの水産物消費量の二つのグラフから矛盾を感じさせ「どうやって」を想起させる。</p>

分	<ul style="list-style-type: none">・輸入に頼っているから・獲るだけでなく、養殖もやっているのではないか・魚を獲る工夫があるのではないか・獲る人々だけでなく、加工したり、保存したりするなど多くの人がかかっているから・豊かな漁場が多くあるから、いっぱい獲れる ○グループで考えた予想を発表し合い、その予想を解決するための学習問題を考える。 <ul style="list-style-type: none">・獲る工夫について調べる・輸入について調べる・獲る人以外にどんな人々がかかっているのか調べる・養殖や育てる漁業について調べる	○自分たちが考えた予想を解決するための学習問題づくりを行うようにする。
	学習問題 水産業で働く人々は水産物を確保するためにどのような工夫をしているのだろう。	
	○学習計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none">・水産物の獲り方の工夫・新鮮なまま保存・加工・つくり育てる漁業・輸入との関係について	◇我が国の水産業の様子について調べること で予想や学習問題を考えている。【思・判・表】
まとめ2分	○本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none">・水産業で働く人々の工夫を調べていきたい。	

(3)板書計画

